

(2) ウィッチ・ハーゼル水	50%	グリセリン	3%
石炭酸	0.05 "	水	46.8 "
安息香酸	0.15 "	香料, 色素	適宜

3. アストリンゼント Astringent

これは前項のものより収れん作用の少し強い化粧水である。アストリンゼントとは収れん剤の意であるが、化粧用のもは作用の緩和なものが使用される。これは脂性の皮膚に好適で、春から夏へかけての化粧崩れを防ぐ化粧下地としてよく用いられる。荒れ性の皮膚には連用を避けるべきであるが、コールドクリームとの併用が勧められている。これの盛んな需要期は春から夏へかけてである。男子のヒゲソリ後の手当料としても好適である。

有効成分としてはアルコールと収れん剤が併用されている。前者の濃度の高い時は後者の濃度を低める。

(1) ホウ酸	1%	アルコール(局方)	35%
水	64 "	香料, 色素	適宜
(2) フェノール・スルホン酸亜鉛	2%	アルコール(局方)	30%
水	68 "	香料, 色素	適宜
(3) 乳酸	2%	アルコール	15%
ミョウバン	1 "	水	77 "
グリセリン	5 "	香料, 色素	適宜
(4) 1. ホウ酸	2%	5. グリセリン	4%
2. ミョウバン	1 "	6. アルコール	15 "
3. カンフル	0.02 "	7. 水	77.46 "
4. メントール	0.02 "	8. 香料	0.5 "

7を温めて1, 2を溶かして5を加え, 3, 4, 8を6に溶かしたものを加え, よくかきまぜて, 更にタルクを加えてよくかきまぜ, 2~3日放置した後濾過する。

〔備考〕 着色料は許可されている合成着色料を用いる。

赤色: 2号と101号が適当, 3, 103, 104号は酸性では沈澱したり, 変色するので使えない, また1, 4号はミョウバンで沈澱する。

黄色: 1号, 4号, 5号を用いる。

青色: 1号, 2号を用いる。

緑色: 1号, 2号, 3号の何れでもよい。

III. 植物汁液性の化粧水

ヘチマの水やキュウリ, レモンの果汁は古くから化粧水として用いられて来た。これらはペクチン質, ビタミン B₂, C などの化粧作用あるものを含み, 一般に酸性であり, 殊にレモンは著量のクエン酸を含んで酸性も強い。

この系統の化粧水にはアルコールを加えない方がよい。貯蔵中に溶性蛋白質の沈澱を来す恐れがあるからである。だが濾過して用いればよい。

防腐剤の添加は必要である。防腐剤としては安息香酸または安息香酸ナトリウム, パラオキシ安息香酸エステルが適当である。安息香酸ナトリウムを使用する時は, 液性が酸性でなければ無効であるから注意を要する。パラオキシ安息香酸エステルの中では, ブチルエステルが最も効力が強いが, 次ぎの割合のもの組合せの使用は更に有効である。

エチルエステル 0.1%, プロピルエステル 0.05%, ブチルエステル 0.02%, (この量は化粧水に対する割合である)。

〔例〕

(1) ヘチマ水	95.5%	安息香酸ナトリウム	1%
グリセリン	3 "	香料	0.5 "
(2) 1. 新鮮なキュウリ水	40%	4. 香料	0.5%
2. グリセリン	5 "	5. 防腐剤	適宜
3. 水	54.5 "		

キュウリを刻み圧搾し, 2, 3を加える。4, 5は少量のアルコールに溶かして前記に加え, よく振りまぜる。1~2日放置後濾過する。2を省いて3と置き代えてもよい。

(3) 1. レモン汁	20%	4. 安息香酸ナトリウム	0.3%
2. 水	70.5 "	5. アルコール	5 "
3. グリセリン	5 "	6. 香料	0.2 "

新鮮なレモンを輪切りにし, レモン汁をしぼり取る。これに4を2に溶か